ninoyu satoshi

発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシティビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成20年 No.203 5月号

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

党利党略に走る民主党の戦術
参議院、道路整備法案否決

一転して採決に応じた民主党

ガソリン税の暫定税率を含む歳入関連法案は参議院で採決されることなく憲法59条の「みなし否決」規定により、4月30日に衆議院で再議決され、暫定税率は復活することになった。厳しい国、地方の財政を考えれば、国民の強い批判を一時的に浴びても暫定税率を維持し、財源を確保する必要がある。次のヤマ場はガソリン税を10年間と定める道路整備費財源特例法であった。この法案は国から地方へ道路整備費を交付する根拠法。道路整備特例法は12日に参議院で否決され、翌13日に衆議院で再議決された。民主党は当初、この法案も参議院で議決しない方針であったが、どう戦術転換したのか、一転否決して、参議院の意思を表明することにした。民主党は自民党が再議決した場合、参議院に福田首相の問責決議案を提出すると強がっていたが、民主党は問責案を見送る方針である。民主党は野党第一党である。国家、国民を忘れ、党利党略に走ってばかりでは、いつか国民から見放される時が来るであろう。

道路整備特例法を否決した参議院本会議(5月12日)

恒心

★今年はゴールデンウイークの始まりとガソリン税の暫定税率復活時期が重なったために大型連休の人出が何かと話題になった。外へ出掛けるのを自粛する人が多いと思ったが、例年通り、行楽地は混雑していたようだ★ガソリンが高くなった、ドライブも出来ないと騒いでいるが、各地の高速道路は相変わらず長蛇の連続で、新名神高速道路すら渋滞していた。あれだけガソリン値上げに大騒ぎしていたのにと呆れるほどである。いや、大騒ぎしたのはマスコミだけかも知れない。★ところで大型連休期間中には祝日が4日ある。29日の「昭和の日」。3日の「憲法記念日」。4日の「みどりの日」。そして5日の「こどもの日」。国民の祝日がこれだけ集中するにもかかわらず、国旗を掲揚している家は皆無に等しく、祝日気分が感じられない町の様子である。子供の将来の大成を願って大空に泳ぐ鯉のぼりがほとんど見かけなくなったのも寂しい★祝日にはそれぞれ日本の伝統文化に根付いた意味があり、成立過程には心ある有識者の並々ならぬ努力もあったと思う。せめて祝日には、その休みの意義を認識したいものである。子供だけでなく大人も知らないのが現実ではないか。長期休暇は観光産業の活性化、経済の振興に貢献するからと祝日を変更したが、本来の日に祝日を戻して、休日を楽しんで貰いたいものだ。

小泉元総理、大いに語る

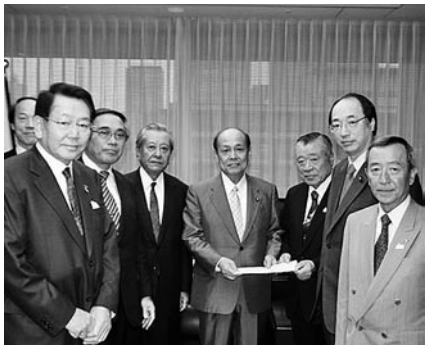
尽きぬ話題、参加者大満足

衆参の中堅議員で構成する賢人会（衆議院）、甲申会（参議院）では、２ヶ月に一度の割合で例会を開催、その都度自民党の幹部を招き、時々の話題について語り合う。５月８日に開かれた例会のゲストは小泉純一郎元総理。たまたまその日は夜に、福田総理大臣主催の胡錦濤主席歓迎晩餐会が首相官邸で開かれ、小泉氏も招待されていた。しかし、小泉氏は「私が行って、中国側に不愉快な思いをさせてはならないので欠席した」と、議員の懇親会に出席してくれた。話はまず、衆参両院のあり方から入った。「所信表明演説は両院で行う必要はない。テレビ中継は衆議院だけであるので、両院の議員を集めて一回で終わればいい。宿舎も衆参一緒でいいのではないか」と国会の改革の具体論に踏み込んだ。衆議院の解散総選挙の時期に話が及んだ。衆議院議員には気になるところである。「今、自民党は非常に評判が悪い。逆風のときである。政党支持率も民主党が自民党を上回った。選挙をしたら惨敗だ。100から150議席ぐらい減らすかも知れない。自民党はじっと我慢をしていることが大事である。三分の二の議席を簡単に放棄すべきでない」と、総選挙を早い時期にやらない方がいいと語った。低迷する自民党の浮上策については「民主党は、道路暫定率を廃止する。高速道路は無料にする。消費税は上げない。老人医療費は据え置く。これからの長寿社会の医療、年金、介護の費用を考えたとき、民主党が言っていることが、いかにでたらめであるか、国民はいつか分かってくれるだろう」と少し時間が必要であると語った。政界再編に触れて、「自民、民主の同じ考えの人が結集するのが望ましいが、今、民主党の議員は反自民と言えば、選挙に有利だからなかなか難しい」と総選挙前の政界再編は難しいと分析した。新聞等で小泉氏が次期総理に小池百合子氏を押し上げていることに関して、「何としても選挙に勝ちたい議員心理を考えれば、小池百合子は大化けするかもしれない」と小池総理の可能性についても言及した。５年以上の小泉政治については色々と評価が分かれる。しかし、少人数で懇談すると、話題も豊富、明快に語り、周囲の人を惹きつける魅力を持った人である。

新型インフルエンザ対策の要望

東京特別区長会が緊急要望

４月28日、十和田湖畔で見つかった白鳥の死骸から強い毒性を持った病原性（H５N１型）が発見された。５月に入って北海道野付半島とサロマ湖畔での白鳥の死骸からも、H５N１型のウイルスが発見された。この高病原性鳥インフルエンザが、人間に感染して、新型インフルエンザとなって大きな被害をもたらすことへの強い警戒感が高まっている。新型インフルエンザは地震等の自然災害と違って、全国的な規模で被害が広がることが予想される。特に東京23区は860万人が住んでおり、ひとたび感染すれば、予想を超える被害が生じ、首都機能が麻痺、大混乱に陥る恐れがある。そのため、東京都の特別区長会では、全国的な規模の危機に対して、国が主導性を発揮して万全の体制をとるよう各方面に要望、４月17日、中川雅治参議院議員（東京選挙区）と特別区長会の有志が総務省に二ノ湯政務官を訪ねた。具体的には、新型インフルエンザワクチンの備蓄、感染患者が入院できる病院の確保、備蓄した医薬品、医療機材を、円滑に区市町村に供給出来る体制の確立等である。


特別区長会から要望書を受ける

自民党木津川支部行政視察

国会を含む、各級議員が参加

昨年３月に木津、山城、加茂の三町が合併して木津川市が誕生した。初代河井市長は旧三町の融和を図りつつ、新木津川市発展に情熱を注いでいる。合併して良かったと多くの住民が思うには懸案の問題を出来るだけ早く解決しなければならない。道路改良、河川改修、浸水対策など旧町から引き継いだ難しい事案が山積している。市単独の財政では不可能で、国の支援が必要である。河井市政の与党である自民党木津川支部では、河井市政を側面から支援するために、百聞は一見にしかずと懸案の場所を実地視察することにした。京都６区の衆議院議員井澤京子、京都選挙区の参議院議員西田昌司、二ノ湯智の三氏をはじめ、河井市長、木村市会議長、島田府会議員、そして多くの木津川市会議員も参加した。それぞれの問題は難しく、簡単に期待に応えることは出来ないが、参加した各級議員は結束して課題解決に向かって努力することを申し合わせた。

忙中閑あり、二ノ湯議員充電に努める

先輩の足跡、先端企業を訪ねる

議員の仕事は本当に忙しい。じっくりと落ち着いて勉強する時間が取れないのが実情である。二ノ湯議員は、かねてより、各地の先人の足跡や、先端企業を訪ねて見聞を広める機会を持ちたいと考えていたが幸い、今年の連休前後、比較的行事が少なく、ようやく二ノ湯議員の希望が実現した。

与謝野鉄幹親子の歌碑を訪ねる

鉄幹選挙出馬の事実を知る

多くの人は与謝野寛(鉄幹)が丹後生まれと思っている。実は鉄幹ではなく父親である礼厳(れいごん)氏が加悦町の出身なのである。礼厳氏は若い時に京都岡崎の浄土真宗西本願寺派の成願寺に小僧として入り、成長し、住職となった。岡崎の地で、礼厳氏の4男として生まれた子供が鉄幹氏である。しかし、礼厳、鉄幹親子が丹後ゆかりの歌人であることには変わりが無く、加悦町には礼厳、鉄幹の碑がいくつか建立されている。4月28日、二ノ湯議員は礼厳の生誕地、加悦町の大虫神社鳥居前の礼厳碑を訪れた。ところで、与謝野鉄幹氏が大正4年3月25日に実施された総選挙に京都府郡部から立候補した事実はほとんど知られていない。京都府郡部の定数は5名。11名立候補したが、鉄幹氏は候補者中最下位で、僅か99票しか獲得できなかった。5位当選者が2872票であるので、鉄幹氏はまさに惨敗であった。当時から鉄幹氏は有名人であり、しかも夫人の晶子氏は高名な女流歌人。何故、99票という結果になったのか。おそらく、当時は制限選挙で、有権者は直接国税10円以上の納税者の男性で、浮動票が非常に少なかったことが大きな敗因ではないか。有名人晶子夫人の援護射撃の効果がほとんど無かったとも言える。

木村俊夫記念館(幽静(ゆうせい)館)

故郷の政治家に学ぶ

木村俊夫と聞いてすぐ思い当たる人はかなりの政治通である。木村氏は明治42年、三重県員弁(いなべ)郡東員町に素封家の長男として生まれ、津中学、第三高等学校、東大法学部を卒業、運輸省を経て、昭和24年、三重県1区より衆議院議員に初当選した。以来、11回当選を果たし、佐藤内閣の官房長官、経済企画庁長官、田中内閣の外務大臣を務めた。地味で、目立たない存在であったが、人格者で清潔な政治家として評価が高かった。佐藤内閣の官房副長官時代、沖縄返還交渉に当たり、アメリカに対して沖縄を「核抜き本土並み」にして返還するよう求め、これを実現した。明治23年第1回総選挙以来、木村家から三代続けて国会議員が出ている。俊夫氏が逝去した際、大蔵省に在職していた女婿が、地盤の継承を勧められたが断った。氏の屋敷は町に寄付され、その跡地に幽静館という名前の記念館が建てられ、名誉町民・俊夫氏を中心とする木村家の資料が展示されている。二ノ湯議員は故郷が生んだ立派な政治家に学ぶ為、5月4日幽静館を訪ねた。

日本で最初の砂防ダム

雲原村復興は西原亀三氏の政治力

福知山市雲原は昔から丹後、丹波篠山への交通の要衝であり、参勤交代の街道で、何軒かの旅籠が軒を並べていたそうだ。昭和9年9月、雲原村に室戸台風による風水害が襲い、雲原村は壊滅的な被害を受けた。人口800人余りの村では、とても自力で復興することは不可能であった。村の人々は、村出身で中央政界で大きな影響力を持っていた西原亀三氏に村長就任を依頼した。村長になった西原氏は大蔵大臣高橋是清氏と交渉、村の復興のために国から多額の補助金を受けることに成功した。先ず、洪水のたびに田畑が被害を受けるのを避けるために砂防ダムに着手、併せて村のあちこちに点在していた農家の田畑を交換し、自分が耕作する田畑を家の近くに集め、農家の労働負担を軽くした。昭和10年から始まったこの事業は27年にようやく完成した。この小さな村でこれだけの大事業を成し遂げたのは西原亀三氏のすぐれた政治力であった。平成16年10月20日、京都府中北部に大きな災害をもたらした台風23号の時にも、雲原地区はほとんど被害がなかった。4月28日、二ノ湯議員は当地を訪れ、雲原公民館長の糸井嘉宏氏の案内で西原氏が情熱を注いだ事業の足跡を視察した。第二次世界大戦の終わりに近い昭和19年11月、元総理・近衛文麿公が、京都府知事を伴って、雲原村を訪れていることからも、西原氏の存在の大きさがうかがえる。

西原文庫前で、糸井公民館長と

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

水は21世紀の最も重要な資源
先端技術に挑む小阪金属工業

水がなければ人間は一日たりとて生きることはできない。災害が起きた時、一番初めに優先されるのは飲み水の確保である。まさに命の水である。地球の異常気象、砂漠化、さらに河川の汚染によって人間が飲料水として利用できる水資源は非常に少なくなってきている。汚染された飲料水によって多くの人々が病気になり、命を落としている。アフリカでは毎日の水の確保が子供や女性の重要な仕事となっている。水が豊富な日本では想像もできない世界の水事情である。川の水を飲料水に浄化する先端技術を有する企業があると聞き、４月28日、二ノ湯議員は、舞鶴市の小阪金属工業（小阪憲一社長）を訪問した。この会社は災害時にも対応可能な浄活水器の技術開発に取り組んでおり、河川から泥水を直接取水して浄化、その場での供給が可能である。由良川でのテストでは日本の飲料水のレベルをクリアできるまでになっており、今後世界的に水資源問題が深刻となる中、このような技術が大いに期待される。

小阪社長から浄活水器の説明を受ける

京丹後市長選 中山氏が再選
市議選、与党が多数を制す

任期満了に伴う京丹後市長選、市議選が去る４月27日に投開票され、自民、公明が推薦した中山泰氏が再選を果たした。二ノ湯議員も告示日前の決起大会の応援に駆けつけ激励演説を行い、また選挙期間中、国会の合間を縫って、中山候補と市議選候補者の事務所を激励訪問するために現地入りした。告示前にはかなりの接戦になると思われたが、中山氏は、４年間の実績を強調、また、「国や府、市のあらゆる力を結集して、産業の発展や雇用の充実を目指す」と訴え、無所属、共産推薦候補を大きく引き離して二度目の栄冠を獲得した。２期目の中山市政には、地域経済の活性化、道路などのインフラ整備、医療福祉、行財政改革など課題解決に大きな期待が寄せられている。市議選の結果は、自民党１名、公明党２名、共産４名、保守系無所属17名で、与党が圧倒的。中山市政には磐石の議会構成となった。

身辺雑記

一、光市で母子が殺害された差し戻し裁判で、当時18歳の青年に死刑の判決が下った。大弁護団の弁論にもかかわらず、厳しい結果となった。死刑反対論の声も大きいが、殺された人の無念、残された遺族の悲しみをどう償うのか。今回の判決は極めて常識的な判決であると思う。

一、山口２区の衆議院補欠選挙は、予想通り民主党が勝利した。後期高齢者医療制度への反発が大きく影響したようだ。増え続ける高齢者の医療費の負担を皆で分かち合う事はよくわかるが、国民に納得してもらう努力も必要である。

一、汚職事件で逮捕された守屋前防衛省事務次官の初公判が、東京地裁で行われた。検察側の冒頭陳述で、約10年間で390回もゴルフ接待を受けていたことが明らかになった。激職なのにこれだけの時間がとれたものだと感心した。

一、大騒ぎの中、４月26日に北京オリンピックの聖火リレーが、長野市で実施された。物々しい警備陣に囲まれたため、有名人が走った割には盛り上がりに乏しかった。これで果たして北京五輪は成功するのだろうか。

一、またしても船場吉兆の不祥事が明らかになった。客の食べ残しを、次の客に使い回しをするとは、呆れてものが言えない。同時に吉兆で高級料理に箸もつけない客がいるとは驚きである。そんな人は自分で金を払っていない人だろう。

歩くことは健康の基本

第181回 みんなで歩こう湯歩会

・日　　時：**6月1日(日)**（小雨決行）
・集合時刻：午前9時（時間厳守）
・集合場所：地下鉄国際会館駅4-1出口
・コ ー ス：宝ケ池公園→子供の楽園→宝ケ池菖蒲園→宝ケ池畔→狐坂→深泥池畔→植物園園内見学後解散

◦今回はリニューアルされた子供の楽園や宝ケ池菖蒲園・植物園を訪ねます。季節の花が咲き競うこの季節、多数ご参加ください。
　植物園入園料は200円です。60歳以上の方は公的な証明書の呈示で無料となります。（診察券は無効です）

（当日）☎090-1956-7460

第180回 みんなで歩こう湯歩会（参加者66名）

乃木神社にて